

# 再 評 価 調 査 書

整理番号	3
担当部局	土木部道路建設課

## 1 事業概要

(1) 事業名	地方道路整備事業	(2) 名称	主要地方道 土浦竜ヶ崎線
(3) 事業主体	茨城県	(4) 箇所名	阿見町実穀地内～牛久市岡見町地内
(5) 採択年度	平成29年度	(6) 完成予定年度	令和8年度
(7) 事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要地方道土浦竜ヶ崎線は土浦市と龍ヶ崎市を結ぶ主要な幹線道路であるとともに、圏央道牛久阿見インターチェンジのアクセス道路としても重要な路線である。</li> <li>・牛久市内の住宅団地の開発に伴う交通渋滞の緩和および圏央道 IC へのアクセス向上による地域の活性化を目的とし、阿見町実穀地内～牛久市岡見町地内までの延長約3.9kmを整備するものである。</li> </ul>		
(8) 事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業延長 L=3,930m</li> <li>・計画幅員 W=30.0～25.0m (4車線)</li> <li>・用地買収、道路改良工事、舗装工事、橋梁工事</li> </ul>		

## 2 再評価の理由

(1) 再評価の理由	再評価 (完成年度変更)	(2) 当初完成予定	令和6年度
(3) 未着工・事業が長期間要している理由	圏央道牛久阿見 IC と県道接続部における、埋設管の移設協議に時間を要した為、工期を延期		
(4) 前回指摘事項に対する対応状況 (再々評価の場合)	委員会の意見	対応状況	
	—	—	

## 3 事業計画の変更

(1) 完成年度の変更	令和6年度 (2017年度) → 令和8年度 (2022年度) 2年延長 【理由】 圏央道牛久阿見 IC と県道接続部における、埋設管の移設協議に時間を要した為、工期を延期
(2) 事業内容の変更	【理由】 —
(3) 事業費の変更	— 【理由】 —

## 4 進捗状況と今後の見通し

(1) 事業進捗状況	全 体	前年度	前年度まで	進捗率
事業量 (m)	3,930	0	1,840	46.8%
事業費	工事費	3,340	1,550	46.4%
	用地買収補償費	760	470	61.8%
	計(百万円)	4,100	2,020	49.3%
(2) 関連事業の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏央道牛久阿見インターチェンジが平成19年3月10日に開通</li> <li>・令和3年3月に圏央道牛久阿見 IC～国道408号区間 (L=1.9km) の4車線化が完了</li> <li>・圏央道4車線化 令和7～8年度予定</li> </ul>			
(3) 今後の見通し	工 事	用 地 等		
	牛久阿見 IC 周辺の整備について、圏央道工事 (NEXCO) の進捗状況を踏まえ工事を推進する。	未買収面積 A=約 17,000m <sup>2</sup> あり、工事着手できるよう用地の取得に努める。		

## 5 評価内容

(1) 事業の必要性	<p>圏央道の4車線化が令和8年度までの開通を目標に進められているところであり、今後、圏央道を利用する交通が更に増加することが予想される。</p> <p>本バイパスの整備により、圏央道や近隣の工業団地へのアクセス強化のほか、周辺道路の渋滞緩和を図る必要がある。</p>					
	社会情勢等の変化に関する指標 1	計画時の状況	現時点での状況	社会情勢等の変化に関する指標 2	計画時の状況	現時点での状況
	土浦竜ヶ崎線 24時間交通量 (牛久市岡見町)	5,231 台/日 (H22セナス)	4,933 台/日 (H27セナス)			
(2) 事業の有効性	<p>本事業の実施により交通容量の増加及び別ルートが構築されたことで、円滑な交通の確保が図られる。下表のとおり現道区間の交通量が約5割減少することで、周辺道路の渋滞が解消されるとともに、圏央道牛久阿見 IC へのアクセス向上につながり、物流をはじめ交流促進に有効である。</p>					
	効果予測に関する指標 1	事業なし	事業あり	効果予測に関する指標 2	事業なし	事業あり
	阿見町実穀～牛久市岡見町(約4.2km)の通過時間 (R22)	7分	5分			
	効果算定要因に関する指標 1	事業なし	事業あり	効果算定要因に関する指標 2	事業なし	事業あり
	計画道路将来交通量 (R22)	—	21,100 台/日	現道将来交通量 (R22)	11,700 台/日	5,500 台/日
(3) 事業の効率性	<p><b>ア) 主な効果 (B)</b></p> <p>①当路線の整備により阿見町実穀～牛久市岡見町までの約4kmの区間及びその周辺道路において、走行時間の短縮により10,900百万円の縮減効果が見込まれる。</p> <p>②①と同区間において、走行経費の削減により1,320百万円の縮減効果、及び交通事故の減少効果が600百万円見込まれる。(合計12,820百万円)</p> <p>③阿見町実穀地内周辺から圏央道牛久阿見 ICへのアクセス向上が図られる。</p> <p><b>イ) 主な費用 (C)</b></p> <p>①事業費 3,770百万円 ②維持管理費 300百万円 計 4,070百万円</p> <p>貨幣化が可能なア、イについて事業の効率性を分析した結果は以下のとおりである。 参考となる指標 B/C= 3.1</p>					
	(4) 地元の意向	都市計画決定の手続きにおいて周辺住民と合意形成を図っており、阿見町からも広域的な道路ネットワークの構築、安全性確保の観点からも整備要望を受けている。				
(5) コスト縮減や代替案立案の可能性	土工における土量の過不足について、近傍で実施している他事業と工事間流用を調整することにより、コスト縮減を図る。					

## 6 対応方針

圏央道牛久阿見 IC へのアクセス向上、都市地域間のネットワーク強化、広域的な幹線道路の整備などのため、事業推進を図る。

## 7 再評価委員会の意見

継続することが妥当である。

## 8 委員会の意見を踏まえた対応

委員会の指摘を踏まえ、現計画に沿って早期完成を目指し事業を進める。

